自分の考えを広げたり深めたりする授業を目指して

東広島市立三津小学校　胡　秀明

1　実践の趣旨

小学校学習指導要領解説国語編で示されている高学年の読むことの目標は，「目的に応じ，内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに，読書を通して考えを広げたり深めたりする態度を育てる」である。

私は読書を通して考えを広げたり深めたりした大学での講義を受けた時，読書の楽しさや奥深さを再認識させられた。そしていつか私も，小学校でこんな授業をしてみたいと思うようになった。

また，私が担任している第６学年も友達と話し合い，考えを広げたり深めたりすることが好きである。今回は文学的な文章の目標はもちろん，自分の考えの形成及び交流を意識した授業に挑戦することにした。

2　実践の概要

（１）単元名　いのちについて考えよう　　教材「海のいのち」（東京書籍　６年下）

（２）単元の目標

○　登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえることができる。

○　本や文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

（３）指導計画（全１４時間）

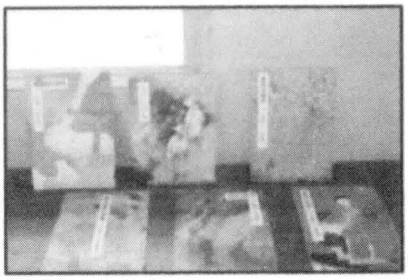
	次	時	主な学習活動
（手立て）	一	①	○　学習計画を立て，単元全体の見通しを持つ。 ・いのちから連想する言葉を書く ・初発の感想を書く。
		②	○　学習計画を立てる。
A		③	○　立松和平の「いのち」シリーズを読む。（並行読書を行う。）
	二		○　「海のいのち」を読む。
B		④	・一人読みをする。
C		⑤	・登場人物の人物関係図を作る。（前半）
		⑥	・太一が瀬の主に出会うまでの心情を考える。
		⑦	・登場人物の人物関係図を作る。（後半）
D		⑧	・太一の瀬の主に対する心情の変化をとらえる。
E		⑨	・海のいのちについて,自分の考えを書く。
F	三		○　いのちに関する本や文章を読み，いのちについての文章を書く。
		⑩	・いのちについての本や文章を読む。（読書の時間なども活用）
		⑪⑫	・複数の本や文章を読み比べ,いのちについての文章を書く。
		⑬	・交流会をする。
	四	⑭	**○　単元の振り返りを行い，学習のまとめを行う。**

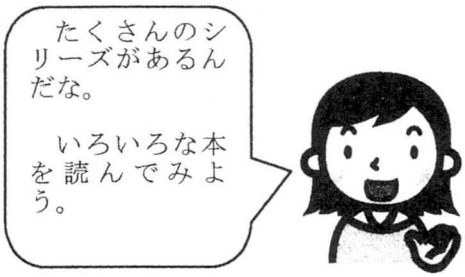
（4）手立てと授業の様子

A　第3時　立松和平の「いのちシリーズ」を読む。（並行読書を行う。）

教材「海のいのち」を学習する前に立松和平の「いのちシリーズ」を読んでおくことで，「海のいのち」を他の作品と比較して考え，児童の読みが変わると考えた。そこで，立松和平の「いのちシリーズ」を紹介し，「いのちシリーズ」を読む時間を設けた。1時間だけでは全作品を読むことができないので，立松和平コーナーを設置し，並行読書を行うようにした。

【立松和平コーナー】





これまでは，教材を読んだ後で，同じ作者の作品を読んだり，教材を読みながら並行読書として同じ作者の作品を読んだりしていた。

今回は教材に入る前に立松和平の「いのちシリーズ」を読んだことで，児童は「いのちシリーズ」と教材「海のいのち」を比べながら，学習をしていた。

また，休憩時間や読書の時間などに「いのちシリーズ」を読む児童を多く，読書への動機付けにもなった。

B　第4時　一人読みをする。

自分の考えを持って，授業にのぞむことができるように一人読みを行った。

一人読みの観点（登場人物の行動と様子，気持ち，主題に関わるところ，不思議に思ったこと，好きな表現，自分と比べて）に基づいて，教材文に書きこみをするようにした。

児童のノート（一人読み）

これまでの学習でも一人読みを行っていたので，児童はスムーズに一人読みを行うことができた。また，書きこみの量も以前に比べて増え，内容も幅広くなった。

また，一人読みをしておくことで児童は自分の考えをもって授業にのぞむことができ，教師は児童がどんなことを考えているか把握して，授業をすることができた。

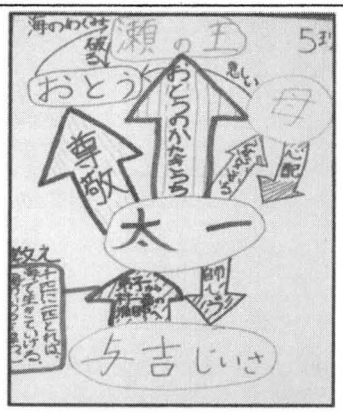
C　第５～７時　人物関係図を作り，太一の心情をとらえる。

太一が瀬の主に出会うまで(前半)と瀬の主に出会ってから(後半)に場面を分け，児童に太一の心
情について考えさせた。

その際，太一の心情を考えさせる手立てとして，人物関係図を作成する活動を取り入れた。

教材「海のいのち」は主人公太一の他に，おとうや与吉じいさなど太一に影響を与えた登場人物が出てくる。人物関係図を作成することで，太一は様々な登場人物の影響を受けながら成長したことを児童に気づかせることができると考えた。そして，単元の目標である登場人物の相互関係や心情を児童にとらえさせることができるのではないかと考えた。

児童の書いた人物関係図(前半)



人物関係図を作ることで，太一はいろいろな人の影響をうけているのがわかったよ。

自分たちの考えをどんなふうに書いたら伝わるかを考えるのが，難しかったです。

児童は初めて人物関係図を作成した。最初はどのように書いたらいいのか悩んでいたが，試行錯誤しながら人物関係図を書き進めていくことで，児童は登場人物の相互関係を考えることができた。

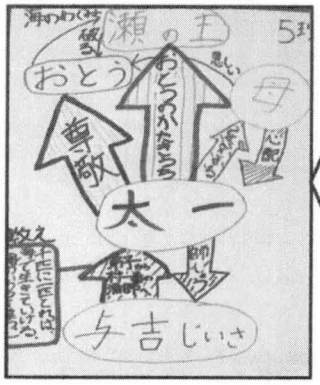
そして，太一は様々な登場人物の影響を受けて成長したことに気づくことができた。

D　第８時　太一の瀬の主に対する心情の変化をとらえる。

人物関係図(前半)と人物関係図(後半)を比べながら，太一の瀬の主に対する心情の変化について考えさせた。ここでは，これまで作成した人物関係図を根拠として比較することで，児童は物語を客観的にとらえ，太一の瀬の主に対する心情の変化を的確にとらえることができるのではないかと考えた。

【人物構成図(前半と後半を比較して)】

【人物関係図（前半）】



【人物関係図（後半）】

人物関係図を比べると，太一の心情の変化がよくわかるね。

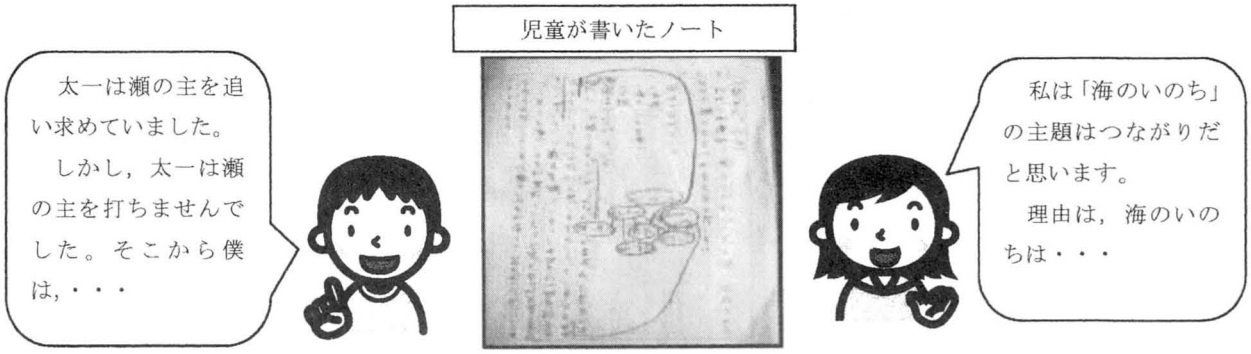
自分たちが思わなかった考えが出てきて，なるほどと思いました。

人物関係図を比較することで，児童は物語を客観的にとらえることができた。また，太一の瀬の主に対する心情の変化を視覚的にとらえることもできた。

しかし，教師がどのように児童の意見をつなげ，まとめていくかという課題も残った。

E　第９時　「海のいのち」について，自分の考えを書く。

太一の瀬の主に対する心情の変化から作品の主題にせまり，「海のいのち」の主題について自分の考えを書くようにした。

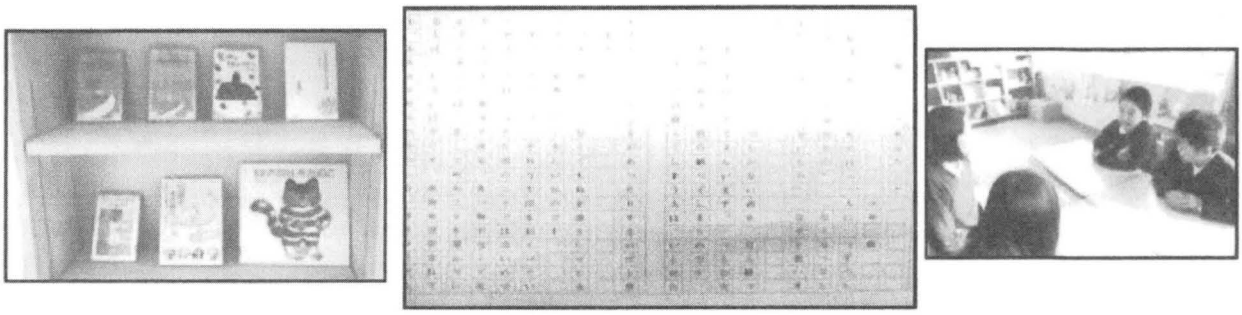


児童は太一の瀬の主に対する心情の変化から，「海のいのち」の主題について一生懸命考えていた。そして，主題について自分の考えを書くことができた。
初発の感想よりも，幅広い視点で自分の考えを書くことができた児童が増えていた。

F　第三次　いのちに関する本や文章を読み，いのちについての文章を書く。

第三次では第二次を受けて，いのちについての本や文章を読み，自分が考えたことを文章にまとめるという学習活動を設定した。そして，単元のゴールに自分が書いた文章を交流することで，自分と友達との考えの共通点や相違点を比べ，自分の考えを広げることができるようにした。

【いのちに関する本のコーナー】→ 児童の作品 → 【交流の様子】



いのちについて考えたことを文章に書くという学習活動を設定したことで，児童はいのちについての作品を意欲的に読み，いのちについて考えることができた。
また，交流会でいのちについて考えたことを話し合うことで，児童はいのちについての考えが広がった。

3　成果(○)と課題（●）

○　人物関係図を作成したことで，多くの児童が登場人物の相互関係や心情をとらえ，登場人物の相互関係や心情を整理することができた。

○　いのちについての文章を書くという言語活動を設定したことで，児童は意欲的に立松和平の「いのちシリーズ」やいのちに関する本を読むことができた。

●　意見交流の視点がしぼりきれなかったため，人物関係図の交流が難しかった。教師が児童一人ひとりの読みを大切にしながら，いかに交流させていくかという課題が残った。